

会 議 録

1 会議の名称	令和 6 年度 第 2 回越前市下水道事業推進対策協議会
2 開催日時	令和 6 年 8 月 7 日（水曜日） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分
3 開催場所	越前市水循環センター 会議室
4 出席委員氏名	奥村会長 横住副会長 禿委員 門前委員 長谷川委員 小竹委員 奥山委員 山形委員 眞柄委員 上木委員 以上 10 名
5 欠席委員氏名	なし
6 事務局職員職氏名	建設部 松村部長 山田理事 上下水道課 兵課長 市村浄化センター所長 小谷副課長 齊藤副課長 木下 GL 和田 GL 今井主査 原主事 経営戦略改定業務受託者 (株)三水コンサルタント 見須奈氏 松田氏 (税)合同経営会計事務所 中津氏 松田氏 竹内氏
7 会議議題	(1) 越前市下水道事業の現状について ① 下水道事業の概要 ② 令和 5 年度実績 (2) 越前市下水道事業経営戦略策定について ① 基本方針および目標について ② 投資財政計画について
8 傍聴者の数	なし
9 会議資料の名称	令和 6 年度 第 2 回 越前市下水道事業推進対策協議会 資料
10 会議の内容の要旨	越前市下水道事業の現状について資料に基づき、①下水道事業の概要②令和 5 年度実績の説明を行い、質疑応答を行った。 議題 1 越前市下水道事業の現状について 質問 1-① 汚水処理人口普及率が令和 5 年段階で 95%ということですが、公共下水道エリアにおいて地理的に公共下水道の施工が難しい地域（例：大滝地区）においては個別処理方式への変更や公共下水道エリアにおいても合併浄化槽の補助金を出すなどして整備率を向上させることはできないでしょうか。 回答 1-① 一部地域の公共下水道への接続困難地域については、平成 30 年に接続困難地域の方へ訪問調査を行い、その当時下水道への接続希望がなかったことで、その地域については整備

を見送っている現状があります。訪問調査では、合併浄化槽を設置するに際しても敷地の問題で設置できない方もいるため、合併浄化槽へ移行がありませんでした。また、現段階で接続困難地域について個別処理方式に見直すという予定はありません。

現在、接続困難地域の方々より下水道接続の問い合わせが来ているということはないのですが、今後各地から相談等があった場合については臨機応変に対応していきたいという風に考えております。

質問 1-②

質問 1-①について当時の訪問調査時には、下水道接続の意思がなかったのか、将来的にもつながないといけないということはないのでしょうか。

回答 1-②

当時の訪問調査時においては接続困難地域の方々はずなぐ意思がなかったということでした。また、下水道接続については将来的には接続していただきたいという風に考えています。

質問 1-③

現在の条例（第 8 条）において、公共下水道の処理開始の日から 3 年以内に当該建築物のくみ取り便所を水洗便所に改造しなければいけないとあるが、接続困難地域の方々に関して接続義務の条例違反として罰則はありますか。

回答 1-③

罰則はありません。

議題 2 越前市下水道事業経営戦略改定について

事務局より、①基本方針および目標について②投資財政計画についての説明を行った。

質問 2-①

人口が減っていく中でも、施設の規模を縮小することは難しく、それらを維持管理することが大変だと思います。その中でこれまでの下水道の計画設計において、かつては QCD（Quality:品質 Cost:コスト Delivery:納期）を主なテーマとしていましたが、今現在では安全、安心、長寿命化、環境性能ということがテーマとして取り上げられると思います。そこでハード整備について、先般の福井新聞に掲載されていた日本海側の海域活断層 25 箇所のうち 9 箇所が福井県にあるということも踏まえて、下水道施設、管路処理施設を含めた地震対策はどうなっていますか。また、能登半島地震でインフラ機能が甚大な被

害を受けたことも踏まえて、防災、減災、長寿命化の観点から越前市下水道事業における耐震対策の現状と将来計画、そして国を挙げての 2050 年カーボンニュートラルに向けた活動として越前市下水道事業が現在やっていること、将来に向けての計画がありましたら教えてください。

回答 2-①

ハード面の耐震対策については、管路の耐用年数は 50 年で、今現在耐用年数を超えている管路は全体の 0.51%となっています。今年度については、昨年度策定したストックマネジメント第 2 期計画に基づき老朽化感度の調査を実施しています。今後は、老朽化状態を把握しつつ耐震対策を含め緊急度の高いものから計画的に改修していこうと考えています。処理場については、ストックマネジメント計画に基づく改装工事を実施するにあたり、耐震化が必須となっていますので、老朽化対策に合わせて耐震化対策に取り組んでおります。ソフト面の対策としましては、BCP 計画に基づく訓練を毎年実施しており、昨年度は課員への BCP 計画の周知、マンホールトイレ設置の訓練等を行っております。また、能登半島地震による支援要請を受け、現地に職員を派遣し災害時の対応方法について経験し学んできたので今後の業務に生かしていければと考えています。

カーボンニュートラル（温暖化対策）についての取り組みとしましては、太陽光発電の導入が考えられ、現在は水循環センターの屋根に太陽光パネルが設置されています。その他の施設については、耐震性の面で危険性があるため現在設置はむずかしいと考えております。その他太陽光パネルの設置可能な場所としては、将来増設予定の基地がある水循環センターがあげられますが、昨年度の基本構想の見直しの中で近い将来、流入量の増加によって装置が必要になる可能性があることがわかりましたので、工事の完了後には現在の空きスペースに導入できないか検討していこうと考えています。

また、家久浄化センターにおいて汚泥処理をする中で発生する消化ガスについて、家久浄化センターのボイラーや温水プールの燃料として再利用を行っています。また、敷地内で民間事業者が消化ガスの発電事業を行うことで有効活用しています。今年の 4 月から供用開始した汚泥処理共同化事業で消化ガス発生量が増加することが見込まれますので、増加量の実績を把握したうえでさらなる有効活用を検討していきます。

質問 2-②

配布資料 P24 における投資計画についてですが、年間数億円の下水道管渠、処理施設建設などの投資計画について毎年約 8 億円近くかかるとのことですが、すでに平準化されて毎年かかるよう計算されているのでしょうか。

回答 2-②

施設に関しましてはストックマネジメント計画に基づいて計画しており、平準化された数値となっております。

管渠については何十億もかけて作ったものを平準化していくので毎年 3 億でもなかな

か改築が進まないというのが現状ではありますが、今後は毎年 3 億程度の規模で進めていきたいと考えています。

質問 2-③

これから先重要になってくるポイントとして、投資財政計画の中に記載ある「不明水調査」とありますが、不明水とは下水道においてどういう捉え方がされていますか。

不明水調査はどのようなことを行い、それを調査することでどういう効果がありますか。

回答 2-③

不明水については、降雨時に下水道管の隙間やマンホールのかぶりの穴や雨どいを通して下水道管につないでいる家庭から流入してくる雨水等が処理場に流れてくるものについて不明水として捉えています。

不明水の調査については、管路の中にカメラを入れて確認、煙を焚くことで雨どいから煙が出てくることを確認する等様々な方法で調査を行っています。

不明水を減らすことで、雨が降った時の処理場施設の処理能力を上回る処理水が流入することを減らし、汚水処理水量を減らしていくことが可能です。

質問 2-④

不明水について 2-③で上げられた以外に地下水を利用されている家庭や、雨水をためて利用されている家庭があると思いますが、そういう家庭にはメーター等をつけていたりし、水量の把握等はされていますでしょうか？

回答 2-④

通常、下水道の使用量を量る場合においては水道のメーターを使用して計測するのですが、地下水、井戸水などを利用する方に関しては、報告いただきメーターをつけさせていただいています。雨水についても下水に流入させるということでしたらメーターをつける場合もあるのですが、いろいろなものが混入してくる可能性があることで現在はできない状態となっております。

今後、雨水の再利用が増えていくことになった場合は、対応についても検討していく必要があると考えています。

依頼

下水道普及率は 96%、水洗化率 93%という目標については、高齢化社会が進み高齢者の 1 人世帯等が増加していく中で、建物等が古くなってきたので解体し下水道の契約を解除する等方も増えてくる可能性が考えられる中で、率の目標で行くと分母、分子が減ること

で無理な数値目標ではないと考えられるのですが、使用量、使用料の額、といった面では減少していくことにつながると思いますので、今後調査検討していただきたい。

質問 2-⑤

水洗化率90%という指標について本当に90%近くも下水管につないでいる家があるのか非常に疑問に思うのですがいかがでしょうか。

もしかすると下水管を入れる前から家が建っており、下水管に接続する必要がある場合はお金がかかるため下水道につながらないとするご家庭もあるかと思いましたので。

回答 2-⑤

越前市全体で90%という数値に間違いはないですが、市としましては質問いただいたケース等についても下水道接続を検討していただければと思います。

次回の日程について

9月 第2回 越前市下水道事業推進対策検討部会（有識者）
10月 第3回 越前市下水道事業推進対策協議会（全体会）
で開催日程案について説明行い。委員の了承を得た。